



俳諧近世句類題集夏部目錄

四月	卯月	初夏	菖蒲	夏衣	綿貫
袷	夏衣	厚衣	夏羽織	菟衣	菘菜
灌佛	若葉	若楓	卯花	抽花	早橋
柿花	栗花	桐苑	女貞苑	棕苑	栗苑
青梅	寺青苑	葉橋	夏柳	夏木立	茂
木下園	夏菴	夏秋	夏刈	小麦	小麦
短夜	夏夜	夏月	午時鳥	布穀	老鶯
少寺	地窟	羽衣	松野	鳥子	鶴
浮粟	水雞	蚊	土	蚊喰	蚊火
					慟

紙帳	蚕	土	蠅	螢	火取虫	毛虫
棒振虫	水馬	飛蛾	蜘蛛	蜘蛛	蜘蛛	牡丹
芍薬	杜若	水蓼	苦竹	紫花	紫花	浮葉
卷葉	初茄子	花茄子	松魚	松魚	松魚	紫葉
五月	檄	甲	粽	柏	菜玉	
石地打	藥降	葛蒲	花あや	蓬蒿	あや	
さうじ	競馬	大あや	竹極	竹の子	若竹	十九
鹿子	照射	火車	垣牛	蛞蝓	枝蛙	
忘草	一ッ紫	管草	常木	十葉花	橙子	廿
石竹	百合	夏菊	葱	葱	美人草	

夏目一

萬尾	青きき	夏芦	菖蒲	世	茨花	霞草子
藜	蓼	酸醬花	夏萩	田植	廿三	入梅
又月友	又月園	廿				
六月	水五月	氷室	不二泊	鞍馬	祇園	廿
嘉定	庭取	紅牡丹	綿花	海花	蒲花	
粟苺	胡广花	荻の花	世種花	藍川	風葉	廿
武陽花	桜の花	櫻花	凌霄	桔花	廿	麻
百日紅	夏燈	夏草	夏山	共青田	油松	
芍薬	石葛	河骨	萍	共藻花	藻川	
瓜	瓜花	蓮花	蝉	廿	夏雲	雲峯



初夏

鶯のさえずり夏を告げけり谷の音  
三ノ六  
花の香もけり海風の音もけり  
標  
田舎のさえずり夏を告げけり  
寅松  
二ノ六のさえずりけり音もけり  
三

青島

鶯のさえずりけり音もけり  
万和  
二ノ六のさえずりけり音もけり  
一茶  
三ノ六のさえずりけり音もけり  
士郎

夏一

鶯のさえずり夏を告げけり  
可也  
三ノ六のさえずりけり音もけり  
成美  
二ノ六のさえずりけり音もけり  
三ノ六  
一ノ六のさえずりけり音もけり  
三  
梅也  
綿也

鈴

鶯のさえずり夏を告げけり  
三ノ六  
二ノ六のさえずりけり音もけり  
三ノ六  
一ノ六のさえずりけり音もけり  
三ノ六

後らるる日かきしむるは海 柳等  
口をくく入るもあまの宿の乳 びま  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和

夏之  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和  
あはれもあまの宿の乳 万和

あはれもあまの宿の乳 万和

あはれもあまの宿の乳 万和  
夏羽折

あはれもあまの宿の乳 万和  
夏羽折

あはれもあまの宿の乳 万和  
夏羽折

あはれもあまの宿の乳 万和  
夏羽折







あまのつれなふらふらささめなる 未嘗  
相の花 女貞花

清く涼しき花のつれなふらふらささめなる 相花 三光  
あまのつれなふらふらささめなる 相花 三光

棕花

棕花の花をさかすらふらふらささめなる 對行

事花

西た〜事の花の日はか 大に花

音梅

音梅や鳥しあまのつれなふらふらささめなる 景花

友

音梅や鳥しあまのつれなふらふらささめなる 未嘗  
音花

山よりあ〜な花のつれなふらふらささめなる 土朗

あまのつれなふらふらささめなる 鳥章

音梅や鳥しあまのつれなふらふらささめなる 鳥章

音梅

あまのつれなふらふらささめなる 雨塘

あまのつれなふらふらささめなる 未嘗

夏柳

あまのつれなふらふらささめなる 景花

夏柳 月のあけも極きのけ 成美  
夏あま

夏あま 村を去るのまゝに 士朗  
我を去るといふて せむきあま 成美  
鳥さしのまゝのりたるまゝに 景飛  
かゝ雨の降るまゝのりたるまゝに 完来  
あま

たゞごとく流るるまゝのりたるまゝに 士朗  
島山よりあまのりたるまゝに 景飛  
あまのりたるまゝのりたるまゝに 景三

お下園

お下園のあ下の正隣 葛三  
常盤不敬

楠ちりもわせたりの書物 三六  
夢のあまのりたるまゝのりたるまゝに 三六  
お下園のあまのりたるまゝのりたるまゝに 井眉  
あまのりたるまゝのりたるまゝのりたるまゝに 景三  
夏あま

あまのりたるまゝのりたるまゝのりたるまゝに 葛三  
あまのりたるまゝのりたるまゝのりたるまゝに 景三

新島... 一茶  
夏百日人の福の... 完素  
... 乃和  
夏秋

... 茶丸  
浦は... 坂山  
... 士綱

... 三平  
... 標也  
夏  
... 五七

夏刈... 横也  
新夏

秋... 一茶  
夏夜

... 士綱  
... 三平  
... 嵐外  
... 横也

一 松の園をばかみりて海松齋  
夏夜

夏のお花はあつたあつた  
あのお花はあつたあつた  
なつたあつたあつたあつた  
あのお花はあつたあつた  
首三

夏月

夏月なつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
三子

夏

夏月なつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
三子

夏月なつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
三子

あふれのうらみ ながさのうらみ 善と  
さしつかへなき 杉の月 一葉  
さしつかへなき 杉の月 一葉  
不如翠 しのぶのうらみ 半  
卯 杉のうらみ 杉のうらみ 横巻  
あふれのうらみ 杉のうらみ 成美  
かたじけなく 杉のうらみ 千新  
杉のうらみ 杉のうらみ 井眉  
梅のうらみ 杉のうらみ 甚雨  
梨のうらみ 杉のうらみ 黄真

鳩鳩

あふれのうらみ 杉のうらみ 三貴  
さしつかへなき 杉のうらみ 土朝  
あふれのうらみ 杉のうらみ 葛川  
さしつかへなき 杉のうらみ 可恭  
あふれのうらみ 杉のうらみ 成美  
さしつかへなき 杉のうらみ 善和  
あふれのうらみ 杉のうらみ 善人  
あふれのうらみ 杉のうらみ 土朝

光

善和





うり物の暢とありてとありて三度  
心利のよからぬは悦びのたゞ麻井智  
我を余の雀の暢九日のあゝる 未嘗

常  
おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ  
ゆききりのたゞおのゝおのゝ 未嘗

考

おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ  
おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ  
おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ

陸

陸をいふはつらつら心は那  
市井たまはつらつらの神の暢  
松路や暢をいふはつらつら  
札赤く暢をいふはつらつら  
子乃の暢をいふはつらつら

管

着るおのゝおのゝおのゝおのゝ  
おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ  
権あやふ 西へおのゝおのゝ



乙二  
貞際  
花の月を控る花の  
てぬ

葵亭  
未嘗  
毛  
花の月を控る花の

東夷  
大左  
子  
花の月を控る花の

彦人  
持振ちやたれり  
あ

雄烈  
印彦  
鳳明  
花の月を控る花の

る他  
井眉  
乙二  
花の月を控る花の





たけのこが子とあはれの世のつとめなり 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
花は子とあはれをいかにせんかき 岳翁

仁 貞

あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁  
あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁  
あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁

五月

あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁  
あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁

幟

あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁  
あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁

幟 兎

あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁  
あまのこゝろをいかにせんかき 貞徳  
あまのこゝろをいかにせんかき 秋英  
あまのこゝろをいかにせんかき 岳翁



はらに清——二の清の省音

つら川とて遊ばむか  
浦の子おなほまきかき

若見まにまの遊ばむか  
乙二 雄測

龍馬

龍馬の遊ばむか  
奇測 虚白

くし金いものまき  
くし馬のまき

あかりの口や松林の位  
北映 葉葉

竹梅の日にし人のまき  
我の志をとりのまき  
竹梅のまき  
竹梅のまき

竹子

竹の葉を煮てのりして  
竹の子を炒めてのりして  
竹の子を煮てのりして  
竹の子を煮てのりして  
竹の子を煮てのりして

あけ

竹の子の葉を煮てのりして  
竹の子の葉を煮てのりして  
竹の子の葉を煮てのりして  
竹の子の葉を煮てのりして  
竹の子の葉を煮てのりして

鹿子

鹿子の葉を煮てのりして  
鹿子の葉を煮てのりして  
鹿子の葉を煮てのりして  
鹿子の葉を煮てのりして  
鹿子の葉を煮てのりして

照射

照射の葉を煮てのりして  
照射の葉を煮てのりして  
照射の葉を煮てのりして  
照射の葉を煮てのりして  
照射の葉を煮てのりして

火車

山崎千伯文の傳のてんてん 夫夫

松のてんてんてんてんてんてんてんてん 蒼丸

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 井眉

地牛地盤

新地のてんてんてんてんてんてんてん 一帯

花鳥のてんてんてんてんてんてんてん 樗半

何れかのてんてんてんてんてんてんてん 出韻

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 首吉

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 菊東

校陸

村西のてんてんてんてんてんてんてん 年心

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 鳳明

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 可頼

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 弟丸

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 三吉

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 中義

てんてんてんてんてんてんてんてんてん 十

てんてんてんてんてんてんてんてんてん



三六  
對行

掛子

葛  
葉  
成美  
心

常夏 台竹

寒松

成美

百合

花  
葉  
狀

夏蘭

對行  
葉  
美人草  
一

新土のよ何をもとめたるはりの  
美人の世のぬかちのけり  
鳳明  
葛尾草

藤神の源をやき尾草  
三庫のきよのくら  
可然堂

青芒 夏草

廿二のよの走り入りの青芒  
夏草  
夏草  
花夢 花夢  
加の酔夢のくより醒るの

新土のよ何をもとめたるはりの  
美人の世のぬかちのけり  
鳳明  
葛尾草

廿二のよの走り入りの青芒  
夏草  
夏草  
花夢 花夢  
加の酔夢のくより醒るの

葉

新土のよ何をもとめたるはりの  
美人の世のぬかちのけり  
鳳明  
葛尾草  
酸漿花



さしつかへなくのまじりあひて 横電  
神山中の里の月の西の半 甚雨

五月園

五月園のまじりあひての終 金堤

六月

六月の終のまじりあひて 完東

六月の終のまじりあひて 昔之

六月の終のまじりあひて 三子彦

六月の終のまじりあひて 万和

五月園

五月園のまじりあひての終 甚雨

六月

六月の終のまじりあひて 完東

六月の終のまじりあひて 昔之

六月

六月の終のまじりあひて 三子彦

六月の終のまじりあひて 万和

鞍馬行伐

山籠子と竹伐とまじりあひて 三子彦

徳園會

我らよこしあはれは乃兒大契  
大神人かきかきかきかきかき  
嘉定 尺艾

人かきかきかきかきかきかき  
嘉祥海井眉  
嘉定 菊真

摩まきかきかきかきかきかき  
三年  
紅の花  
琵琶の按 未嘗

夏草

あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
文左

浄の花

あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
貞興 菊鳩

葎花

あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
あはれは乃兒大契  
三十一元 菊雄

蘭の花中 桂 梅 芍薬 牡丹 水仙  
西条藩 胡蝶の花

西条藩 中 西条藩 上 乙二  
胡蝶の花 何れの花も 西条藩 中 乙二  
花の花 西条藩 上

花の花の花の花の花の二日月 可也  
冷くとも 花を 西条藩 上 乙二  
西条藩 上 乙二 西条藩 上

西条藩  
西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二

西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二  
西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二

西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二  
西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二

西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二  
西条藩 上 乙二 西条藩 上 乙二

櫛

心白みの雨の根なる櫛の丸 椿堂  
屋のり中し鳥のさすの元あせら 月水  
近江路や櫛の下りる車 鳥章

凌宵

凌宵のや日とさる山崎鳥の舌 定来  
凌宵のやあそびもさるの歌 未嘗

楮の花

高野の初瀬のる楮の花 榮元

麻

百日紅

赤なる水は麻の葉はそ白ひなき 三千夫  
麻州はつゆかたのねむる葉は 雪雄  
歌集の酒ひきかひ麻をけ 棟光  
まきし雨も降る傘 麻島 其人  
麻州のあめはまのさす神のつ 雨木  
百日紅  
碧は遠く東のさすのやる日紅 定来  
湖乃果をさるる物なる日紅 北映  
株よる糸と糸のよる日紅 菊葉  
赤んぬのなる糸のよる日紅 未嘗

夏野

花のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草

夏草

さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草

夏山

さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草

青田

さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草

海松

さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草  
さかすまの草のよき山にさかすまの草



旅人の海松松の月夜に  
川はささるるささるる月夜に  
五明

石首 河骨

石首子 海松松の月夜に  
河骨子 海松松の月夜に  
五明

岸

岸子 海松松の月夜に  
岸子 海松松の月夜に  
五明

藤花 藤川

藤花子 海松松の月夜に  
藤花子 海松松の月夜に  
五明

瓜

瓜子 海松松の月夜に  
瓜子 海松松の月夜に  
五明

老らうらら丘ちちう起る

遠

遠はちか人もありぬ昔の夜  
きくた遠のこゝろ山田那  
以満く白遠とくしをきく  
我よのこせは消えり遠の夜 貞照

降

降もや島とるけの内桂を  
降るはきは降る本流の如  
素流も山にふりて降のよ 成章

あやむの舟場なる降のよ  
おとせしはさるはく降のよ  
山はくはのよのせいのよ  
降るは桂をく梅は山めく  
未曽

夏雲

夏の雲は白雲とせいの鳥頂

雪

くまの月おんかき雪の  
くまの雪はくまの雪の  
る雪鳥の雪の雪の雪の  
雪雄  
三十一

舟の舟を以てまの嶺 城美  
橋の橋を以てまの嶺 陰波  
馬の馬を以てまの嶺 菊嶋

白  
兩

舟の舟を以てまの嶺 士羽  
橋の橋を以てまの嶺  
馬の馬を以てまの嶺 幽肅  
舟の舟を以てまの嶺 連也  
馬の馬を以てまの嶺 李獲

五世一

舟の舟を以てまの嶺 三夫  
橋の橋を以てまの嶺 菜犯  
馬の馬を以てまの嶺 椿也  
舟の舟を以てまの嶺 卓池  
馬の馬を以てまの嶺 鳥章

舟の舟を以てまの嶺 城美  
橋の橋を以てまの嶺 葛三  
馬の馬を以てまの嶺 成美

川  
智

中より流るる水は  
又流るる水は  
むらゝゝゝゝゝゝゝゝ

川智也流るる水は  
川智の流るる水は

鴉

鴉一乃鴉射出く  
鴉の羽は  
鴉の羽は

二五世

涼

鴉乃鴉田中乃  
鴉の羽は

鴉乃鴉田中乃  
鴉の羽は

納  
涼

鴉乃鴉田中乃  
鴉の羽は



新嘉坡の湯山をうつむく用は 与人  
指のしらべ舟の底旋ち角は 未嘗

爪

白くうりの草をわかしは 爪を 昔之  
爪をきりたや 爪をきりたや 爪をきりたや 爪をきりたや

帷子 羅

かこしや入ららるるの色を 昔之  
帷子の色は 帷子の色は 帷子の色は 帷子の色は  
くすみの色は 帷子の色は 帷子の色は 帷子の色は  
よめあはれいとしは 帷子の色は 帷子の色は 帷子の色は

友世四

け

あつきの位の奥へ けり 友田  
くすみの色は 帷子の色は 帷子の色は 帷子の色は

晒

子やうしきき 晒す 樽也  
晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す

麻

くすみの色は 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す

掛香

掛香のしきき 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す 晒す









旅人の持物 一 行清の  
 与のめりておる藤の乳 樽堂  
 舞のつとて泉と我がと 常美

茅の場 湯後  
 子と母と一帯の物とて又婿が 大石丸  
 夕のつとておる湯後の 雪雄  
 子と母と一帯の物とて又婿が 葛之  
 子と母と一帯の物とて又婿が 士嗣

俳諧近世数句類題集夏部 畢

一七 俳諧

